

## A01a WFMOS プロジェクトの将来

須藤靖 (東大物理)

WFMOS(Wide-field Fiber-fed Multi-object Spectrograph) とは、すばる望遠鏡の主焦点に設置が検討されている広域多天体ファイバー分光装置の略称である。HSC(Hyper Suprime-Cam) による撮像サーベイが 2011 年頃開始されることを考えると、引き続きすばる望遠鏡による分光サーベイを行うことの科学的意義は改めて強調する必要すらないかもしれない。実際、過去数年にわたり、Gemini 天文台と国立天文台はこの共同プロジェクトに関する検討を重ねてきた。2009 年 3 月にはその概念設計レビューを終え、カリフォルニア工科大学と JPL のチームからなるデザイン案が採択された。それを受けて 2009 年 5 月 18 日～21 日に開催されたすばる/Gemini 国際会議において、さらなる共同研究の推進体制に関する合意がなされる予定であったが、その直前の 5 月 12 日、13 日に行われた Gemini 理事会においてこのプロジェクトの中止が突然決定された。しかしながら、WFMOS の科学的意義はすでに日本の天文学コミュニティに浸透してきたものと考えられる。したがってその後も、この WFMOS を全く違う枠組の新たなプロジェクトとして実現することが真剣に検討されている。事態はきわめて流動的であり、この予稿の執筆時点では具体的なことは何も確定していないが、秋季年会時にはある程度の方向性が見えているはずである。そこで本講演では、WFMOS に関するその時点での最新の経緯とその将来の見通しについて報告するとともに、今後に関する様々な意見を頂く議論の場としたい。